

## 議案第一号平成28年度調布市一般会計補正予算（第5号）反対討論

本補正予算案は、歳入歳出それぞれ2億7千万円余を減額し、歳入歳出総額をそれぞれ906億円余とするものです。年度末の最終補正になりますが、この補正予算には上程時に質疑しました調布駅前整備事業に関する経費が予算化されています。具体的には駅前広場内にある樹木保全のための費用です。

市長は、28年度当初予算の時点では、原則全ての樹木を伐採する方針でしたが、多くの市民の署名に応え、11本残すことを決断され、昨年11月29日の全員協議会で経緯を含め、説明されました。この決断は、重要な政策変更ですから、12月議会では、補正予算案を提出し、議会の意思を問うべきであると市長に質問しました。

市長は、提示した案が最大限配慮した結果であり、既存の予算内で執行するので、議会審議を求める必要がないと、答弁されたことは、皆さんご承知のとおりです。

しかし、今回、市民の樹木保全への強い思い、また議会からの指摘などを主な理由として、補正予算案を提出されました。

昨年10月30日開催の環境保全審議会での意見を尊重し、専門家も含めて、庁内横断的な検討をしたうえで案を作成していれば、環境への配慮もできますし、何より、参加と協働のまちづくりの貴重な実践であったはずで、市の基本計画に掲げられた庁内横断的連携はなぜ活かされなかったか残念でなりません。また上程時質疑において市長は、予算の実施時期について、樹木の移植時期もあるのでできるだけ早く対応したいと答弁されました。

一方で、建設委員会では、予算執行を最大限見送り、樹木保存に絞って様々な団体等と議論するように、との意見に対して、その意見に沿って対応する主旨の答弁が所管部長からありました。これはできるだけ早く予算執行したいとした市長発言と矛盾するものではありませんか。

多くの市民が樹木保存の運動を進める中で、調布駅南口広場の樹木を守ることから見えてきた様々な課題に気づき、駅前広場のまちづくりを考えていく必要性を認識されています。そのうえで、調布駅南口広場の樹木をできるだけ多く保全し、地下駐輪場建設など南口広場開発について立ち止まって見直すよう求める趣旨の要望書が、市と議会に提出されました。市民にとって駅前広場は、タコ公園や樹木と共に様々なイベントを通じて交流し自治を育んでき場所であり、その存在が市民の心に刻まれた調布市のアイデンティティになっている広場だからこそ、市民も100年の計という大きな視点に立って行政と共に汗を流し参加と協働のまちづくりを進めていきたいと求めています。今、多くの市民の思いを受け止め、立ち止まって、再度、市民と向き合い、よりより私たちの駅前広場を考え、創り上げる決断をするべきではないですか。

駅前広場整備に当たり、新たな課題も示される中、新生・調布のシンボルとなる駅前は、後世にも引き継がれるべき都市空間です。ビジョンをしっかりと持ち、過去から未来へとつながるまちを創っていくためには、樹木保全のみにしぼった議論で集約するのではなく、一度立ち止まってグリーンホール問題、地下駐輪場の課題も含め、合意形成をする努力が必要です。時間や財源に制約はあっても、ごみ焼却施設建設の時と同じように市民との話し合いをしながら、再度じっくり検討する決断をするべきです。市長！49歳の時に、市長選に立候補された時の公約を思い出してください。情報の共有を徹底し、現場に足を運ぶ市政の実現とした中で、不透明な政策決定プロセスをなくし徹底的に情報公開する、と力強く発言されました。それが市長の基本姿勢であり、そのことに共感して多くの市民が支持したことを忘れてはいけないのではないかと、多くの市民は信じていますし、私も信じています。多くの市民がしっかりと考えていい駅前を創ろうと声を上げていることに真摯に向き合い、一緒に考えて住民自治を育み、参加と協働のまちづくりを進めていただくことを強く要望し、反対の討論とします。